

刈払機の使用に関する特記仕様書

1 一般的注意事項

(1) 第三者への安全対策

- ア 作業を行う際には刈払機使用者とは別に合図者を定め、第三者や車両が接近した際には、一旦作業を中断し、安全確保に努めること。
- イ 周辺状況をよく確認し、石や小枝等が飛散しないよう防止策を講じ、また、状況に応じて交通誘導警備員を配置するなどして作業を実施すること。

(2) 服装、保護具

- ア 作業服は、袖じまりのよい長袖、裾じまりのよい長ズボンを着用すること。
- イ 履物は、足に合った滑りにくい丈夫なものを着用すること。また、滑りやすいところでは、滑り止め器具を使用すること。
- ウ 保護帽は、規格に合ったものを選び、あごひもをしっかりと締め、正しく着用すること。
- エ 合図に必要な呼子（笛）または防犯ベル等を携帯すること。
- オ 丈夫で軽いすね当てを着用すること。
- カ 振動障害防止対策として、防振手袋（振動を吸収するゴム引きのもの等）を着用すること。
- キ 刈払機のエンジンをかけているときには、騒音による難聴や振動の影響の進行を防ぐため、耳栓やイヤーマフを使用すること。
- ク 眼を保護するため、防じん眼鏡（ゴーグル）を着用すること。
- ケ 必要に応じて防蜂網を使用すること。

(3) 刈払機の持ち運び

- ア 刈払機を車等で運ぶときは、刈刃をはずすか、刈刃に安全カバーをかけること。
- イ 肩にかついで運ぶときは、歩行者間の距離を十分に保つこと。
- ウ 作業場所を変えるために移動する場合など刈払機の持ち運びを行うときは、エンジンを必ず停止させて行うこと。

2 作業の方法

(1) 作業姿勢

- ア 常に身体のバランスがとれた姿勢で行うこと。
- イ 常に正しい基本動作を守ること。
- ウ 傾斜地では、転倒、転落しないように足元を確認すること。

(2) 操作時間の管理等

- ア 刈払機の操作時間は1日2時間以内とすること。
- イ 刈払機の一連続作業時間は、おおむね30分以内とし、一連続作業時間の後、5分以上の休止時間を設けること。
- ウ 夏季に直射日光に長い時間当たると、めまい、けいれん、全身けん怠、意識障害等の熱中症にかかることがあるので、休息、休憩をこまめにとるようにし、休息、休憩時間等には立木等の日陰で休み、水分や塩分を十分に補給すること。

(3) 作業の方法

- ア 対象物を刈り払う刈刃の位置は、安全に切断できる部分で行うこと（左回転の刈払機では、刃の前方左側3分の1の部分を対象物に当てるようにする）。
- イ 刈幅は、1.5m程度とし、刈幅の中央よりやや左側（斜面の場合には、やや下方）に立ち、右から左に2～3回に分けて刈り払うこと。また、刈り払い対象物を左側（斜面下方）に倒しな

がら進むこと。

ウ 刈払機の大振り、刈刃で打つ、たたく等の方法で刈らないこと。

エ 往復刈り及び刈刃の回転方向と反対の方向には刈り払わないこと。

オ 石、伐根、残材等の障害物が予想される箇所では、まず高い位置で刈払い、安全を確認してから低く刈ること。

カ 刈刃が岩石、障害物等に当たったときは、ただちにエンジンを止め、刈刃が止まったことを確認してから、刈刃の損傷、亀裂等を点検すること。

キ 刈払い作業は、刈刃を腰より低い位置にして行うこと。

ク 刈払い作業中は、作業員から 5 m 以内を危険区域とし、この区域内に他の作業員を立ち入らせないこととするが、安全作業上は 15 m 以上離れて作業することが望ましい。

ケ 急傾斜地では、斜面の下方に向かって刈り進まないこと。

コ 刃と飛散防護カバーとのまわりに草類、つる類等がからまったときは、エンジンを止め、刈刃が止まったことを確認した後、刈払機を地面に安定させて取り除くこと。

サ 複数の作業員で作業をするときは、上下、近接作業にならないよう、十分な間隔をとって作業員を配置すること。

シ 刈払いの進行方向の終点まできたら、連続使用を避けるため、刈払い始点の位置まで戻り、列を変え、刈り始めること。

ス 刈払い作業中の作業員に近づくときは、あらかじめ呼子等で合図を行い、作業員がエンジンを止め、刈刃が止まったことを確認してから近寄るようにすること。

(4) かん木等の切断

ア かん木等を刈払機で切り倒す場合は、切断部の直径が 8 cm 程度以下とすること。

イ かん木等を切断する場合は、樹高の 1.5 倍の区域内に他の者を立ち入らせないこと。

ウ つる等がからまって反発するかん木等は、反発力を弱めるため受け口を作り、その後、追い口を切り伐倒すること。

エ 飛散防護カバーを取りはずしての作業をしないこと。

オ キックバックや滑りを起こしやすい刈刃の部分で、かん木等を切断しないこと。

3 その他の留意事項

(1) 飛散防止について

ア 飛散するおそれがある浮石、小枝等不安定なものは、あらかじめ取り除き、作業現場の環境を整備すること。

イ 石や枝などが飛散しないよう防止策を講ずること。特に住宅、道路沿いなどで歩行者や器物に被害を与えるおそれがある場所での作業においては、防護ネットなどで飛散防止策を実施すること。

(2) その他

ア 強風、大雨、大雪等の悪天候や雷が発生し、あるいは雷雲が近づき、落雷による危険が予想されるときは、作業を中止すること。

イ 労働災害発生時等の緊急時における連絡体制の整備、確立を図ること。